

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391300102		
法人名	社会福祉法人 日岳会		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	熊本県宇城市小川町南部田597		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村報告日	平成28年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成28年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者が安心して過ごせるためにしっかりと訴えに耳を傾けています。また安全に生活出来るように生活リハビリやリハビリ体操を行い、身体機能の維持に努めています</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>周辺は畑が多くのかで、近隣には複合商業施設があり、生活しやすい環境にあるホームである。複数の高齢者施設を運営する法人を本体とし、隣には他の事業所がある。緊急時には隣接の事業所との連携ができており、法人や関連事業所で開催される研修や敬老会やクリスマス会などのイベントに参加している。本年度はホーム主催で「どんどや」を開催し、多くの人との交流を深めている。入居者を理解するために職員は個別で話をする機会を多くとり、職員間で共有し、介護計画につなげケアに活かしている。公用車を利用して、以前より外出の機会が多くなり、入居者の生活にメリハリができ、楽しみごとが増えたり、身体機能低下防止のために生活リハビリやリハビリ体操に力を入れている。今後は設立4年を経て、地域へのホームの存在は認識されつつあるものの、緊急時などの協力体制の構築のためにも、ホームの理解や認知症の啓発のための取り組みが期待される。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一同勉強会などを行うときにも理念を共有して実践につなげています	毎月の勉強会で理念を確認し、理念に沿ったケアで支援しているかの振り返りを行っている。職員や訪問者の目につくように玄関やリビングに法人理念と共に掲示している。	法人理念と共にホームの理念を再確認し、職員だけでなくホームを囲む関係者への啓発が期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	総会や区役、餅つき避難訓練などに参加して交流しています	近隣に住宅地があり散歩時には挨拶をしている。地区の総会や区役に職員が参加し、地区の避難訓練餅つき等に入居者と供に参加し交流を図っている。ホーム便りを回覧板にて地域住民に見てもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野の花通信を作成して南部田地区の回覧板に置いて地域の方々に知ってもらっています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者に会議時報告して意見を聞きサービス向上に活かしています	ホームの活動状況や入居者の生活の様子などを報告している。外部評価の結果も報告し意見交換をする予定としている。メンバーからはホームへの質問や意見があり、検討し回答し運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回は支所を訪れ連絡を取りながら協力関係を築いています	運営推進会議への出席があり、定期的にホームを訪問され入居者の様子やホームの雰囲気を知ってもらっており、情報交換をしている。又毎月支所や本庁を訪問し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同身体拘束をしない方針を持ちケアに取り組んでいます	法人の研修参加やホームの勉強会にて身体拘束についての弊害を理解し、拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同虐待をしないように心がけて介助を行っています		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などを開催し理解してもらい支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分説明して理解してもらっています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を取り入れて仕事に反映させています	家族の面会時に入居者のホーム生活の様子や健康状態について説明している。年2回家族会を開催し、職員紹介や入居者の状況と一緒に食事をしたりし、意見や要望を聞き運営に反映させている。運営推進会議への出席もある。2ヶ月毎に「野の花通信」を発行し家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会などで出た意見を反映させています	毎月の会議や勉強会の機会に職員の意見やアイデアを聞いている。その場で職員で話し合ったり、解決できないものについては、法人にあげたり、法人で開催されるリーダー会議に持ちかけ検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が向上心を持って働ける環境作りに努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人ひとりにあわせた研修や資格取得を進めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の研修参加を設け交流する機会を設けています		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して過ごされるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの情報、要望などを聞いて対応しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何をしてもらいたいかを見だし対応しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的の雰囲気を作り関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談しながら関係医を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の催し物が有るときには参加して頂き関係が途切れないように支援に努めています	入居以前から利用の美容室を継続して利用され、美容室側の送迎もある。地域の市や祭りに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話し合えるように場所などを考えて行っています		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡などを行い相談や支援を行っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の意向にそって行っています	食事の後のゆっくりとした時間に傍らに寄り添い話をする際などに本音や希望を聞く事が多い。困難な方は反応やしぐさ、家族から情報を得ている。得られた情報は職員間で共有し、介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を頂き把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一同把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合いながらスタッフで介護計画を作成します	本人や家族の希望を取り入れた介護計画作成をしている。毎月入居者の状況について全職員で意見を出し合い、3ヶ月ごとに担当者によるモニタリング、介護計画の見直しをしている。変化があればその都度見直し、現状に合った介護計画を作成している。作成した介護計画は家族や本人に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有しながら見直しなどに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ一同で取り組んでいます		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の役員から情報を頂きながら本人が暮らしを楽しむことができるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医と相談しながら受診を行っています	入居前からの医療や希望の医療機関の診療を受けられるようにしている。職員による通院介助をしている。受診後は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護師が不在だがひだけ荘にいる看護師に相談しながら受診をしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やソーシャルワーカーと関係作りを行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ取り組んではないけどスタッフ一同勉強会などを開いて体制作りを行っていききたい	重度化した場合に家族とかかりつけ医と話し合いを重ね、本人や家族の希望を優先するようにしている。現在、重度化や看取りの経験はないが、希望があれば職員は研修参加で学んでおり、取り組む姿勢である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフには定期的に訓練を行い実践力を身につけてもらっています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や研修会などで身につけている、また地域の区長などに協力体制を築いています	入居者参加で昼、夜想定で火災避難訓練を実施している。運営推進会議などにて地域への協力を依頼している。隣接事業所の協力を得ている。	

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を1人の人間として尊厳ある言葉掛けや支援を行っています	入居者をそれぞれの生活歴を有する個人として尊重し、各入居者に合わせた言葉使いや対応をしている。法人研修でも接遇等学んでいる。記録などの個人情報に関しても徹底して保護している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞いたり、出来るように支援していきます		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の好きなように過ごすことが出来るように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝から身だしなみを行い、落ちついた生活が送れるように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みを聞きながら、また出来る利用者には野菜の皮むきやコップあらいなど手伝ってもらっています	入居者の好みや季節感を取り入れた献立を職員が作成している。茶碗の片づけや野菜の皮むきなどの下拵えを出来る入居者と一緒に行っている。職員も同じ食事を一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った味付けや量を出して支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアをしていただいたり介助したりして清潔を保っていただいています		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで、夜間はポータブルトイレを使用して介助を行っています	時間やしぐさを察知して他の入居者に分からないように声かけやトイレ誘導を行っている。日中はトイレでの排泄支援をしている。夜間はポータブル使用や、パットの種類を変えたり、各入居者に合わせている。排尿等の感覚のない入居者には夜間は時間ごとにパット交換などで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやみかん、水分補給(コーヒー)などをこまめに行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入浴したい時間に合わせて介助を行っています	通常は2日に1回とし、入居者の希望される時間に合わせて入浴支援を行っている。拒否の方は時間をおいて声をかけたり違う職員がお誘いしたりと工夫している。無理強いはしないで、清拭やシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて昼寝をしてもらったり就寝時間を考えて行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬について理解して服薬介助を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事に使用する野菜の皮むきや本人の趣味を理解して行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	リフト車があるので時期をみてスタッフと共に出かけるようにしています	天気や体調を考慮して外出している。ドライブやコスモス見学や町のお祭りや買い物などに出かけている。日頃はホーム周辺の散歩や外周を歩いたり、歩行訓練を兼ねて行っている。	

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にお金を持たせたり、預かっているお金で買い物出来るように出かけています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴え時にはスタッフが対応して電話をかけたりするように支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにソファやこたつを置き過ぎやすいように配慮しています	共有空間であるリビング、ダイニングや居室、廊下とそれぞれ余裕がありゆったりとした広い空間である。リビングにはテレビを中心にソファが置かれ、それぞれにお気に入りの場所で過ごされている。加湿器、空気清浄器が設置され、清潔な暮らしを提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きいオファや1人用のソファを置いて自由に過ごせるように工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら過ごせるように工夫しています	入居時に家族に依頼して、以前使用されていた家具や生活用品の持ち込みがしてある。椅子や筆筒、テレビ等が持ち込まれている。家族の面会時は居室で過ごしていただいており、余裕のある空間である。身体状況に応じて、家具のレイアウトを変えたり、足元にセンサーを設置したり、それぞれに応じた居室作りの支援がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには看板を作り床はバリアフリーにしてあり動きやすいように工夫してあります		

2 目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム野の花

作成日 平成28年3月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		理念の共有と実践	法人理念とホームの理念を統一し更に理念を再確認しホームを囲む関係者への啓発	毎月の勉強会で理念を読み上げ共有し利用者様の尊厳を守りながらまごころを込めて接していきます。又地域の方々やご家族にも家族会や野の花通信などを通して理念を発信していきたいと思えます	3ヶ月
2		居心地よく過ごせる居室の配置	落ち着ける空間作り	ご家族に相談し本人のなじみの物を持ってきて頂き居室に配置する	3ヶ月
3		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	今の状況ではまだ難しいが今後の利用者のレベル低下に伴い看取りケアを考えていきたい	看護師の採用や訪問看護の導入を行い看取りケアを行って行きたい。又職員も定期的に看取りについての勉強会を行っていく	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。